

■ 編集後記 ■

『翻訳研究への招待 2』をお届けします。ご覧のように 11 編の論文とインタビューを収めており、ページ数ともども前号のほぼ 1.5 倍という充実したものになりました。充実ぶりでは内容の方もひげをとれません。今回特筆すべきは柳父章先生のインタビューを掲載できたことです。このインタビューがひと味違っているのは、聞き手が若い研究者グループであることで、さながら日本の翻訳研究における知のリレーを思わせるものがあります。論文は理論的なものと実証的なものがほぼ半々と、バランスの取れた内容になっています。実証的研究では偶然にも翻訳学習者(学生)とプロ翻訳者を比較した論文が 3 編集まりました。それぞれ違った角度からアプローチしており、興味深く読めます。2 号のもうひとつの特徴は執筆者の構成です。すでに博士論文を提出された佐藤美希さんの他に、博士後期課程の方が 5 人。日本の翻訳研究がアカデミーの内部においても胎動を始めていることを示しています。また今回は海外在住の研究者からも 2 編投稿がありました。次号は今回執筆できなかった有力な執筆者も加わる予定で、さらに充実した内容になるはずで、発行は一月ほど繰り上げて 2009 年 1 月になります。

おそらくは単独で研究を続けているであろう日本の翻訳研究者を糾合し、発表の場を提供するとともに学問分野としての確立を目指すという遠大な計画も徐々に形を為してきたように思います。翻訳研究隆盛のカギになるのは翻訳研究分科会の活動です。日本の翻訳研究の確立のために、積極的に参加されるようお願いいたします。(水野 的)

■ 投稿規定(仮) ■

・投稿規定は当面、学会誌『通訳研究』に準じます。『通訳研究』との大きな違いは論文の性格です。『通訳研究』投稿規定の最初にある、「通訳の理論と実践および教育に関する論文を中心に」の「通訳」が「翻訳」に変わります。(『通訳研究』には翻訳研究の論文も投稿できますが、『翻訳研究への招待』には通訳研究プロパーの論文は投稿できません。)査読も行います。詳しい内容については以下をごらん下さい。なお投稿の締め切りは 2008 年 11 月 30 日とします。

<http://www.someya-net.com/10-JAIS/toukou-kitei.html>

・投稿資格は原則として日本通訳学会会員に限り、ただし入会申請をすればその時点で投稿資格ができます。入会申請の方法については以下をごらん下さい。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jais/html/nyukai/html/admission.html>

・翻訳研究分科会の活動を含む日本通訳学会の日常的活動・催しについては以下のサイトをごらん下さい。

<http://blog.so-net.ne.jp/a-mizuno/>

・問い合わせ先・投稿先:お問い合わせと投稿は電子メールでお願いします。

a-mizuno@fa2.so-net.ne.jp

日本通訳学会翻訳研究分科会・担当理事 水野 的